

屋代南・屋代北橋梁見学記

編集委員会

4月20日に、本誌編集委員会による現場見学会が開催されました。場所は長野冬季オリンピック開催（1998年）前に完成をめざし、建設が進んでいる北陸新幹線（高崎～長野間）屋代南・屋代北橋梁でした。当日は、前日まで降っていた雨も止み、風の強さが気になりましたが、まずまずの見学日和でした。

本橋の架設地点は、北陸新幹線長野駅から10km程度東京寄りの長野県更埴市屋代地区にあり、長野自動車道の本線および更埴市インターチェンジ、さらに国道18号線の上を横断する位置にあります。

本橋の特徴としては、構造上では、①鉄道橋としては世界で初めて建設されるたわみの少ない新しいタイプの連続PC斜張橋、②荷重条件に応じて発生する左右の張力差を摩擦とせん断キーで主塔に伝達する新開発の「貫通固定方式システム」の採用、また施工面では、③施工性と施工精度を上げるため貫通固定部にプレキャスト部材を使用、④高速道路や国道上で施工するため特別な防

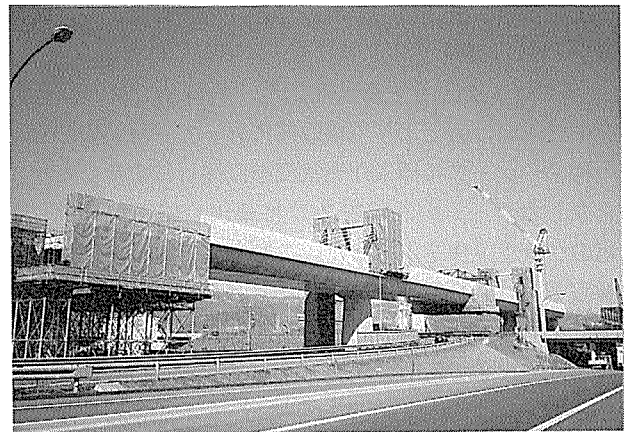


写真-1 北橋梁施工全景

護対策が施され、解体・撤去時には上部と下部が独立して自走できる移動装置を備えた、特殊2主桁移動作業車の採用、があげられます。

現場インフォメーションセンターにてOHPを用いた

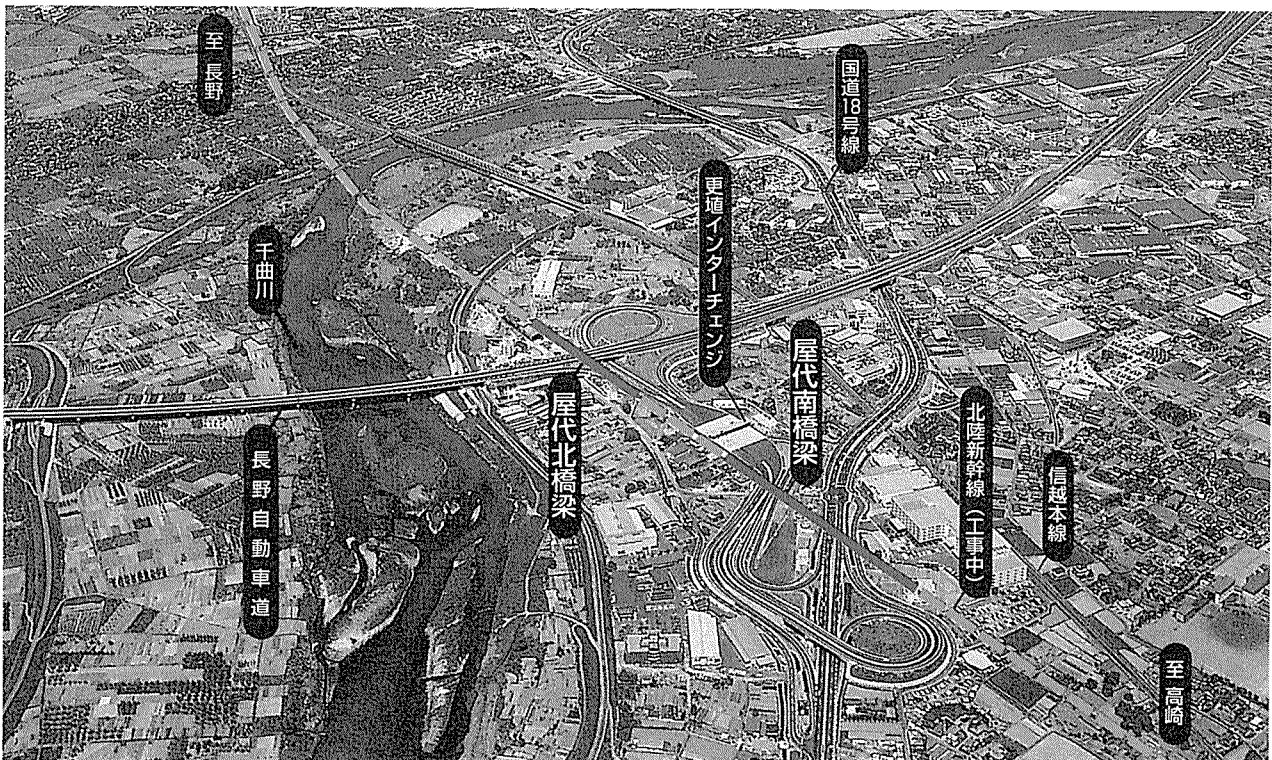


写真-2 架設位置

◇報文◇

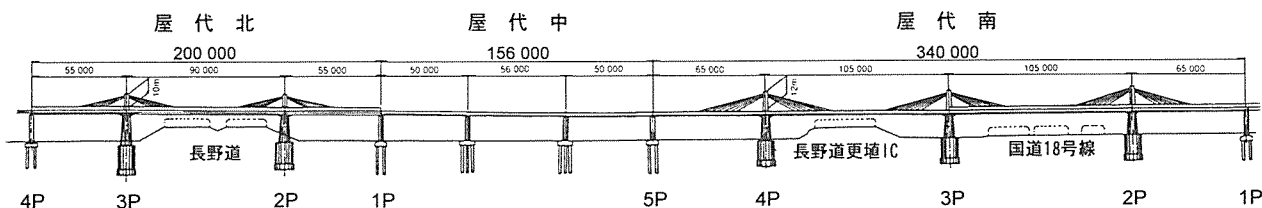


図-1 一般図

全体の工事概要の説明を工事関係者から受けた後に、4径間の南橋梁3Pから3径間の北橋梁2Pの順で施工状況を見学しました。工事の進捗は順調な様子で、南橋梁3Pは7ブロック張出し施工中（2P-3ブロック、4P-9ブロック）で主桁鉄筋組立、斜材ケーブル挿入作業中で橋面はもとより主塔頭部に昇って主塔部の定着具の様子やケーブル挿入作業状況を直接目に見ることができました。一方の北橋梁2Pは張出し施工が完了し主塔のグラウト作業中でした。こちらは、箱桁内に入り斜材定着部付近を中心に見学させていただいたのですが、何分にも中年が大半（？）の参加者のためか長年培った腹がじゃまして円形の開孔部を通過する時には四苦八苦の様子でした。

参加者16名のほとんどが上野から約2時間半特急を利用しての現場入りでした。途中車窓から見る北陸新幹線の建設状況は、桜やあずの美しい花が咲く春の風景の中でひとときわ活気を呈しているようでした。橋梁工事に携わる者としては胸ときめくものがあり、阪神大震災、円高、サリン事件と暗い話題が多い中でひとときの清涼感を味わうことができました。今後の編集活動の活

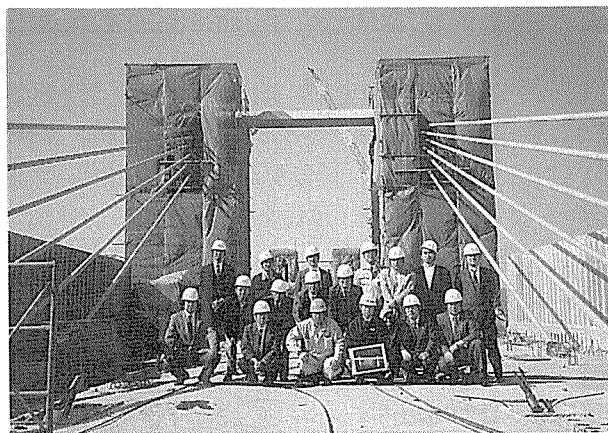


写真-3 集合写真（北橋梁2P上にて）

力となることでしょう。

最後に現場案内に労を頂きました、日本鉄道建設公団北陸新幹線建設局戸倉鉄道建設所および、銭高・大豊・守谷特定建設工事共同企業体の方々に心よりお礼申し上げます。

【文責：堂前 満（ピーシー橋梁(株)本社技術部）】